

【認知症対応型共同生活介護】

作成日 平成21年 8月 3日

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0572308906
法人名	(有) シルバーサポート
事業所名	グループホーム梅の里
所在地	潟上市飯田川下虻川字八ツ口49-2 (電話) 018-854-8130
評価機関名	財団法人 秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1-1
訪問調査日	平成21年7月24日

【情報提供票より】 (21年 6月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成15年10月15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤7人, 非常勤2人, 常勤換算7.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	階建ての	～ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	50 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (6月30日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名	
要介護1	2 名	要介護2	1 名			
要介護3	6 名	要介護4	名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	86 歳	最低	74 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	神田医院、大久保歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利便性のよい住宅地に位置しており、周囲の環境は静かで落ち着いている。「①利用者が人として尊厳ある生活を送れるようサポートします。」「②明るく穏やかで笑いのある生活を実現します。」「③利用者やその家族、地域に対して開かれたホームを目指します。」という大変わかりやすい運営理念が掲げられ、職員相互及び家族との共通理解の基で、利用者一人ひとりのペースを十分に尊重したケアが行われている。とくに利用者の外出支援に力を入れており、位置確認のために携帯ナビを活用するなどの工夫もみられる。また、民謡ボランティア等の来訪や、近隣の会合や行事などへの利用者の参加等、地域との交流も活発に行われている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	職員間で確実に情報伝達ができる体制作りや利用者の生活歴等を活かしたケアの実施などの改善課題に対し、職員間のミーティング等による、十分な協議と連携に基づく取り組みが進められている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員相互の共通理解の基で、評価の意義を理解しサービスの向上に活かしていくことを目指して、自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議が2ヶ月に1回定期的に開催されており、ホームの現況報告を行い、ターミナルケアや感染症予防対策、介護保険の現状等、ケアのあり方や運営課題を幅広く討議してサービスの向上に活かしていくとともに、民生委員や利用者家族の他、行政、地域の関係機関や地域住民等に広く出席いただき、ホームを理解いただく機会として活用している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情受付窓口を開設し周知を図るとともに、家族の来訪の都度、要望等を伺えるように配慮されている。苦情等については、解決に向けきちんと話し合い、ケアの向上に活かされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域在住の方々が民謡等のボランティアとして訪れてくださるほか、地域の会合や行事等への利用者の方々の参加や、行政主催で開催される文化祭への作品の出品など、地域との交流や連携が積極的に図られている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念をわかりやすい言葉でまとめ、利用者のケアに活かされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	共通理解を深めるため、毎日申し送りの際に職員皆で唱和しており、理念に添った支援に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者が地域の会合や行事等に参加している他、近隣の行政主催で開催される文化祭へ作品を出品する等、地域との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	それぞれの職員が評価の意義を十分に理解し、評価結果を職員間で共有するとともに、家族にも周知し、共通理解のもとでサービスの改善に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催される運営推進会議において、ホームの現況報告を行い、運営課題等を討議してサービスの向上に活かしていくとともに、地域住民や地域関係者等にホームを理解いただく機会として活用している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者と連携を深めて、サービスの向上に活かしていけるように、働きかけに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に報告を行うとともに、毎月の便りの発送で状況報告を行う等、十分な連絡に努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を開設し周知を図るとともに、家族の来訪の都度にきちんと要望等を伺うようにつとめており、ホームの運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はみられないが、利用者が安心して生活できるよう、必要な支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な外部の研修等に、個々の職員の希望や経験等に応じて参加できるよう配慮している。また、受講した内容を全体のミーティングで発表する他、報告書を職員間で回覧しており、職員全体の研修としても活かしている。		外部研修への派遣とともに、ホーム内で、職員が働きながら段階に応じた研修を受ける機会を持つことにより、知識や技術の修得並びにケアに対する職員の意識の統一など、日々のサービスの向上が図れるよう、独自の取り組みが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会等を通じた交流が図られており、サービスの質を向上させていく取り組みに活かされている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	入居前にホーム訪問の機会を持つことが可能であり、入居後も生活歴等に基づき、それぞれに合った話題を見つけながらコミュニケーションを深めていくことに努めており、馴染みながらサービスを利用できるよう配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	落ち着いた造りの食堂兼居間を活用し、職員が常に利用者の近くにおいて喜怒哀楽を共にし、学び支えあう関係がつけられている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの利用者の生活への思いや意向の把握に努めており、意向に沿った外出等、利用者の本位の対応を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族のホーム来訪時の話し合いや電話による確認を行い、本人や家族の意見・要望などを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月初めに開催されるモニタリングや昼休みの後に行われるカンファレンスなどで、介護計画立案、見直しのための話し合いを行っている。1ヶ月毎のモニタリングと3ヶ月毎の見直し（短期目標）を基本としながら、個々の利用者の状況に即した対応に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一人での外出を希望する利用者、本人及び家族の了解の上で位置確認のための携帯ナビを持っていただくなど、個別の状況に応じて柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりが、それぞれの希望に沿ったかかりつけ医やかかりつけ歯科医を受診できるように支援している。さらに、地域の協力医療機関との連携により訪問看護サービスを利用し、利用者の健康管理に活かしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族会において、ホームとしてのターミナルケアへの対応等について話し合いを深めているが、個々の利用者毎の方針については、今後の課題として検討中である。	○	早急に、利用者一人ひとりについて、重度化した場合や終末期への対応などについて、家族やかかりつけ医等と話し合い、方針を共有していくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	それぞれの職員が、利用者一人ひとりの思いを受けとめ、誇りやプライバシーを十分に尊重した対応に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人の希望に沿った柔軟な外出や、希望する時間帯の入浴等、一人ひとりの利用者のペースを大切に、希望に沿って生活できるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、盛り付け、後片付けなど、それぞれの経験や特技等を活かし役割を分担し、食事を楽しむことができるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間帯や回数などを、それぞれの利用者の希望に合わせて配慮し、一人ひとりがそれぞれのペースで入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、おしぼりたたみ、茶碗ふき、畑作り、居室の掃除など、利用者それぞれが、生活歴や力を活かした役割等を持ち、張り合いや喜びのある毎日を送れるよう支援につとめている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿ってホーム全体での外出を行ったり、職員も私服で同行したりと、外出を楽しめる雰囲気作りに努めている。また、個別の意向を把握し、携帯ナビの活用等による外出支援にも積極的に取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	運営者及び全ての職員が、鍵をかけることの弊害を十分に理解したケアに努めており、日中は玄関の鍵がかけられていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署員の指導のもと、年2回定期的に避難訓練を実施しているが、地域の人々への参加の呼びかけは、十分に行われていない。	○	訓練への参加など、災害時に地域の人々の協力を得るための働きかけを行うことが期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を詳細に記録し、常に状況を把握し、早期に変化に気づくよう努めている。また、間食を含めてバランスよく栄養をとれるように配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた造りの食堂兼居間は、それぞれの利用者が落ち着いて過ごせるように配慮されており、窓から畑の作物を見ることが出来る。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの利用者が、それぞれの思いに添った使い慣れた家具等を持ち込み、落ち着いて過ごせるように配慮されている。		

※ は、重点項目。